こどもがしるべき

ピリピへの

ピリピへのは、パウロがピリピにあててからったです。

パウロがのでたてたピリピは「トロアスからマケドニヤでってをえなさい」というみことばにって、ヨーロッパにっていってたてたのでした。

ピリピののは、さなというをつ「クレニデス」（Krenides）だったのですが、マケドニヤのフィリップ２がくのをさせて、のをもとにピリピとつけました。

ピリピは、ヨーロッパとアジアをするなでした。それゆえ、ギリシヤ、ローマ、アジアなどのいろいろながんでいて、の、、がくありました。そこには、ユダヤのがなく、もなかったのです。

ピリピへのは

１つ、キリスト・イエスにあって、パウロとピリピがひとつのからだになって、にあってのわりとかちうことについてしました。

２つ、キリストのよってをするユダヤをして、ただイエス・キリストをってするについてしました。パウロはをして「ユダヤなはちりあくたであり、ただキリストにかってきなさい」といました。

３つ、キリストのにあるあふれるびで、のにあったピリピをめ、ますためにしました。

パウロとピリピのように、たちレムナントも、どんなにあってもしないようにしましょう。はただキリスト・イエスをする、をったのにしましょう。